

平成 29 年度いわき市総合防災訓練

アンケート【結果】

本アンケートはいわき市総合防災訓練において、訓練に参加された市民を対象に、市民の防災意識の向上や、訓練で抽出された課題を共有し、今後の本市における防災への取り組みに役立てるために実施した。

いわき市総合防災訓練（概要）

- (1) 開催日時 平成 29 年 9 月 24 日（日曜日）※三和・田人地区 9 月 30 日（土曜日）
午前 8 時 30 分～正午まで
- (2) 主 催 いわき市
- (3) 会 場 市内 13 地区
- (4) 参加者数 **3,430 人**
- (5) テー マ 「地区住民を中心とした、実践的な地域防災力の充実・強化」
- (6) 想定災害 午前 8 時 30 分 震度 5 弱地震発生
津波警報発表／土砂災害警戒区域における土砂崩れ前兆現象発生

各地区の訓練内容及び参加状況について

今年度の訓練については、地震災害に伴う津波襲来に備え、津波避難場所や避難経路を確認することや、土砂災害警戒区域等に指定されている地域を対象として、情報伝達から避難までの一連の流れについて確認することにより、災害による被害軽減及び防災意識の高揚を図ることを目的とした。

【津波に備えた避難体制の充実・強化を図る訓練を実施した地区】

平地区、小名浜地区、四倉地区沿岸部

【土砂災害に関する警戒避難体制の充実・強化を図る訓練を実施した地区】

勿来地区、常磐地区、内郷地区、四倉地区（中島地区）、遠野地区、小川地区、好間地区、川前地区、久之浜・大久地区、三和地区、田人地区

訓練参加人数については、13 地区において、地区本部及び消防等の市職員のほか、自主防災組織や消防団など防災関係機関を中心に、**3,430 人**が参加した。

■地区別人数内訳		(単位:人)			
		訓練参加者	訓練従事者		計
			職員 (行政・消防・水道)	関係機関 (消防団・警察等)	
9月24日 (日)	平	659	67	167	893
	小名浜	77	36	34	147
	勿来	57	28	30	115
	常磐	48	32	32	112
	内郷	242	27	55	324
	四倉	951	21	87	1,059
	遠野	70	15	38	123
	小川	43	22	42	107
	好間	70	13	21	104
	川前	60	13	30	103
	久之浜・大久	36	11	37	84
	小計	2,313	285	573	3,171
9月30日 (土)	三和	63	6	15	84
	田人	121	18	36	175
	小計	184	24	51	259
合計		2,497	309	624	3,430

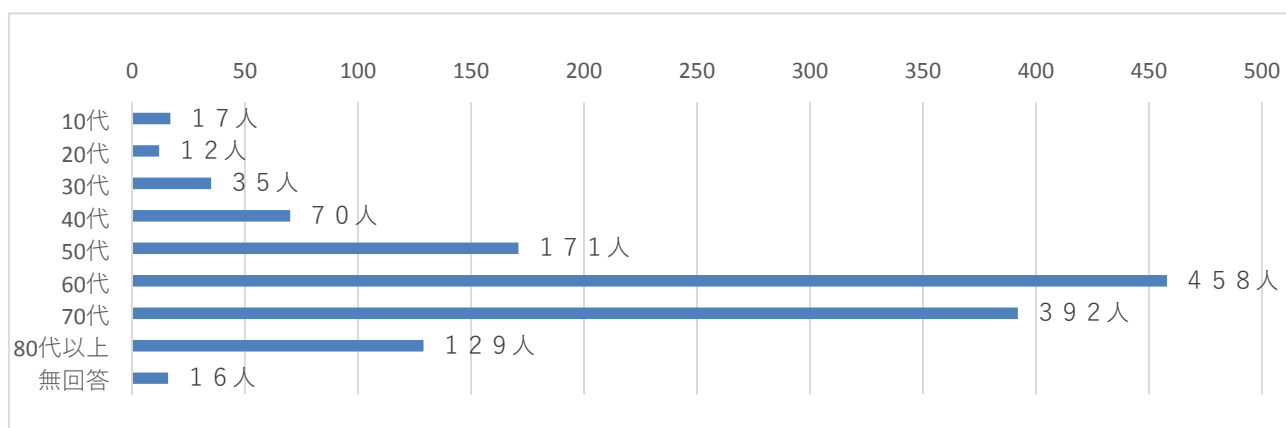
総合防災訓練に参加された方（訓練従事者を除く）2,497人のうち、1,300人（約52%）の方々にアンケートの回答を頂いた。災害想定別にみると津波災害を想定した地区の回答者が706人、土砂災害を想定した地区の回答者が594人であった。

	平	小名浜	四倉(津波)	勿来	常磐	内郷	四倉(土砂)	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久ノ浜・大久	計
10代	3	1	6	0	0	1	4	0	1	0	0	1	0	0	17
20代	3	0	3	0	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	12
30代	10	2	6	3	1	7	1	0	0	1	2	0	1	1	35
40代	16	1	20	2	2	9	1	4	4	1	6	2	1	1	70
50代	32	8	41	9	4	11	11	6	15	1	10	7	9	7	171
60代	100	18	127	23	19	53	8	17	18	18	18	26	3	10	458
70代	45	32	143	14	17	56	11	8	15	20	3	16	2	10	392
80代以上	16	13	48	4	14	8	3	3	2	7	1	3	1	6	129
無回答	5	1	6	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	16
総数	230	76	400	56	57	146	40	41	58	49	40	55	17	35	1300

3 総合防災訓練アンケート結果

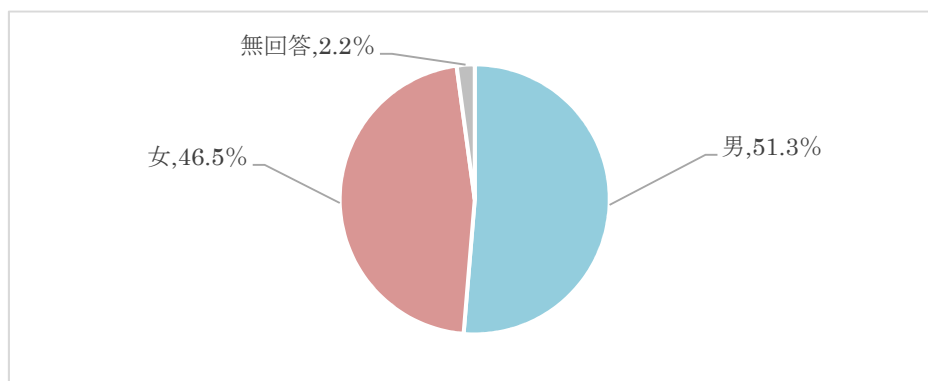
質問1. あなたのことについて伺います。

(1) あなたの年代について



回答者のうち、50代以上が約90%を占めており、昨年度以前から実施している防災訓練でも同様の傾向が見受けられるため、市内小中学校等に対して積極的な参加を呼びかけるなど、若年層における参加率の向上に向けた取り組みが必要と考える。

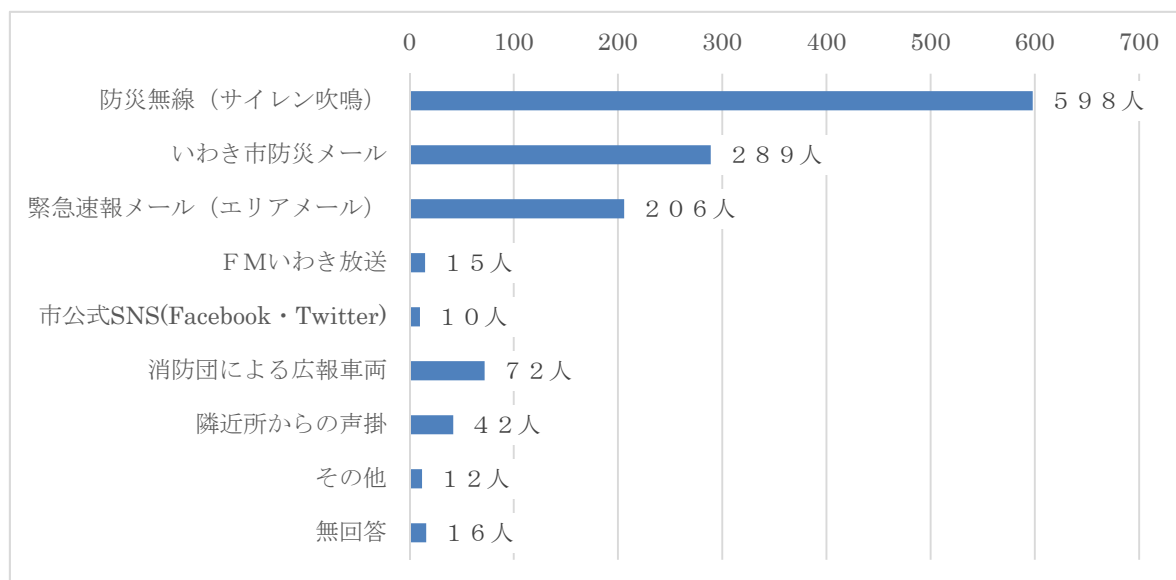
(2) あなたの性別について



質問2. 本日の訓練について（本項目は災害想定によって質問が異なっております）

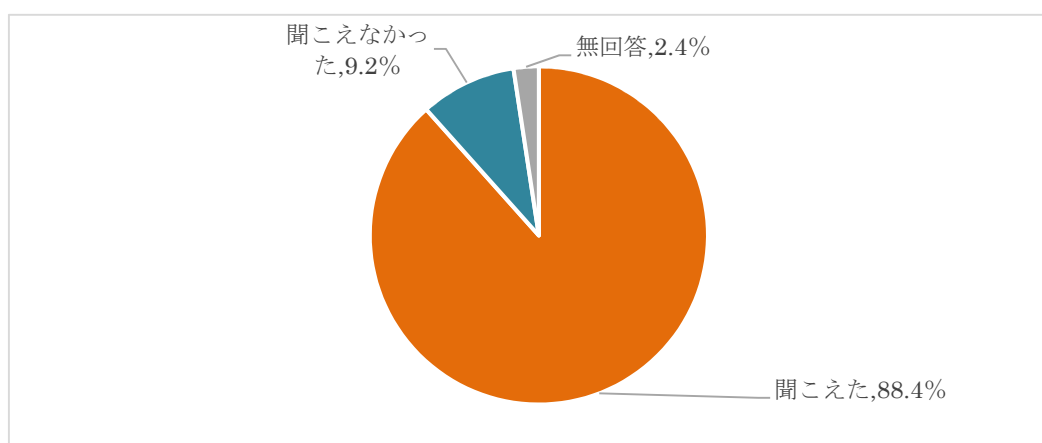
【津波】

(1) どのような手段で津波警報の発表を確認しましたか？（複数回答可）



大部分の参加者が、沿岸部に設置している屋外拡声子局からの放送及び携帯メールにて情報を受け、避難を開始しているが、消防団による広報や隣近所での声掛も有効であることが確認された。

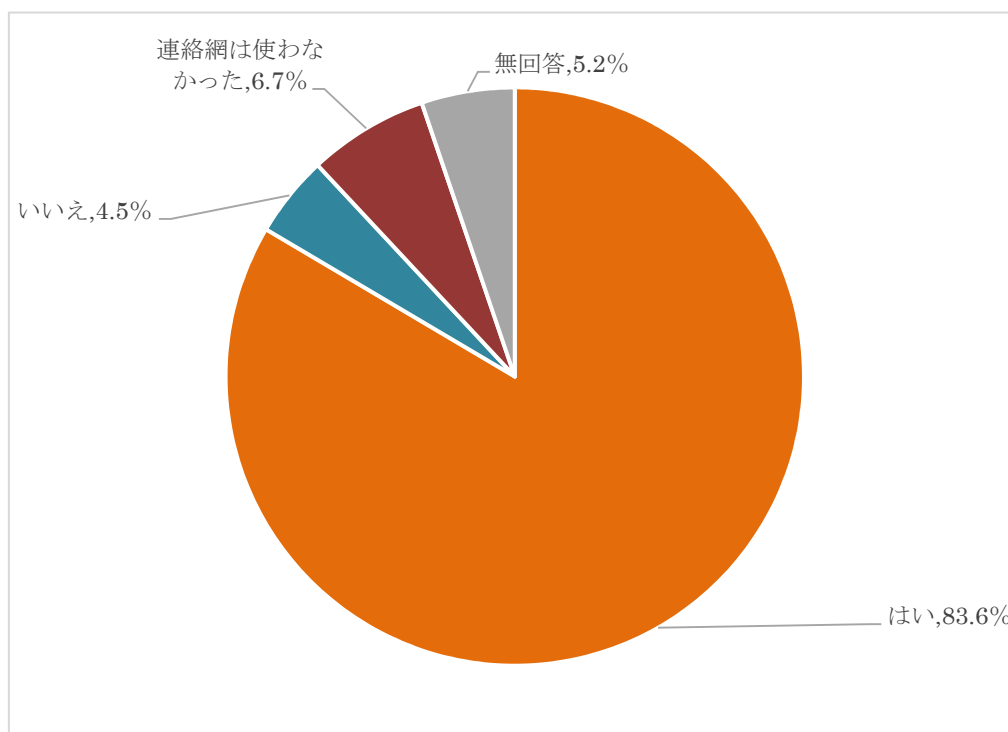
(2) 防災無線は聞こえましたか？



訓練に参加した約9割の方が防災無線を聞き取ることができているが、聞き取れない方もいるため、実際の津波警報が発表された場合は、繰り返して放送を行うことと、日頃から複数メディアでの情報を確認するよう周知することが必要と考えられる。

【土砂】

(1) 土砂災害警戒区域ごとに定めた緊急連絡網を使って、電話や呼び掛けにより円滑に情報伝達できましたか？



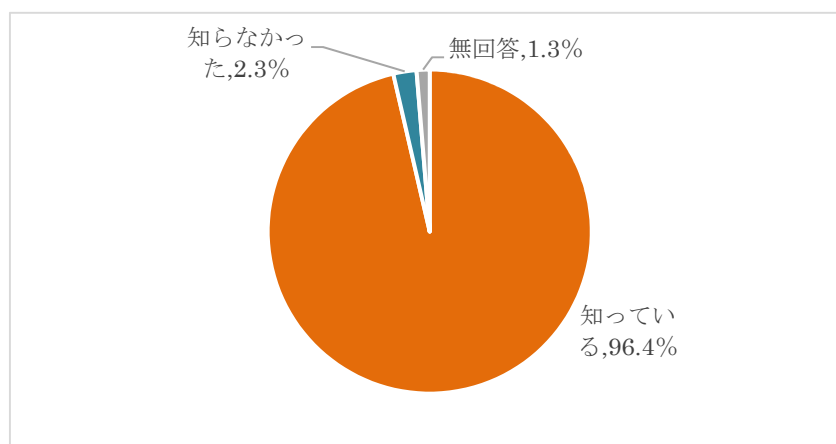
訓練に参加した8割以上の方が連絡網を使用して円滑に情報伝達を行うことができていた。

(2) どのような点に問題がありましたか？※ (1) で「いいえ」と答えた場合

- ・ 決めた連絡網が機能していない
- ・ 現在新しい連絡網を作成中のため
- ・ 回覧で廻っていた手順と違っていた
- ・ 不在の家庭が多く、直接足を使わないと連絡が取れない
- ・ 老人が多く、電話による連絡は有効ではなく、車による広報が必要

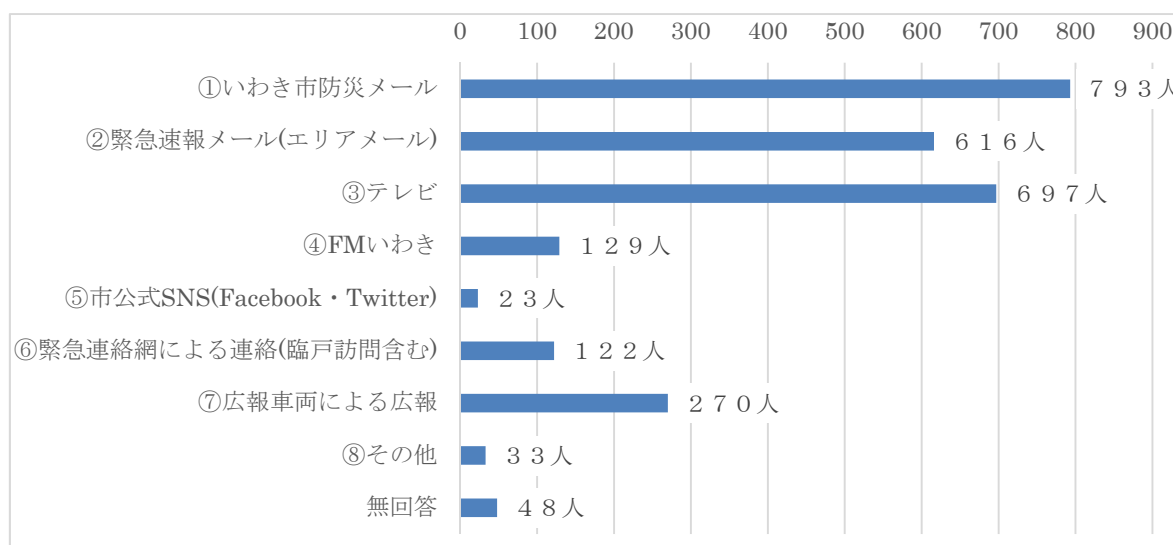
質問3. 日頃の防災対策についてお聞きします

(1) 自宅から最寄りの避難場所や避難所を知っていますか？



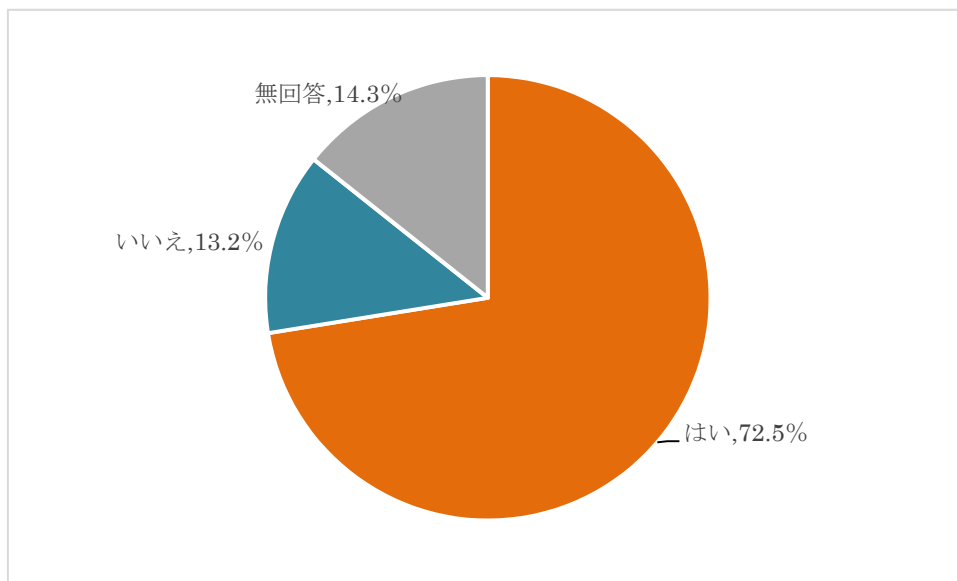
- ・ 訓練に参加した大部分の方が最寄りの避難所や避難場所を知っているとの回答である。
- ・ 災害事象によって避難する避難場所、開設する避難所が異なるため、防災マップや津波ハザードマップ等により、地区住民へその情報を伝えることが必要となる。

(2) 日頃、防災に関する情報を何で確認していますか？



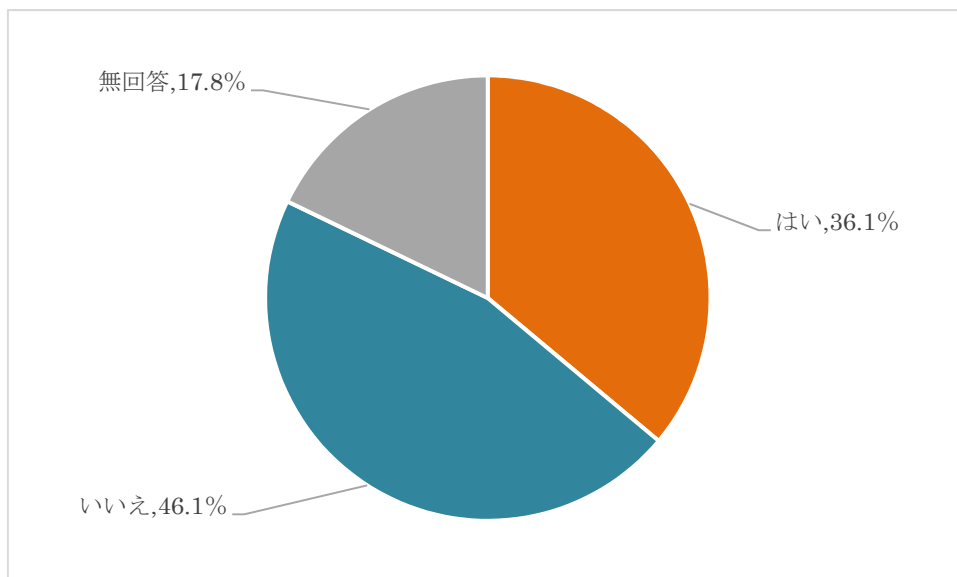
- ・ 市防災メールや緊急速報メールに併せて、テレビで情報を得ている方が多いため、実際の災害事象では速やかな情報発信が重要になると考えられる。
- ・ FMいわきや広報車両での周知は携帯電話を使用していない方に対して情報を周知するのに有効であると思われる。
- ・ 市公式 SNS で情報を確認している人は比較的少ないが、普段から SNS に慣れている若年層世代に対しては有効な情報発信手段になると思われる。

(3) 避難場所や避難方法について、ご家庭で話し合ったことがありますか？

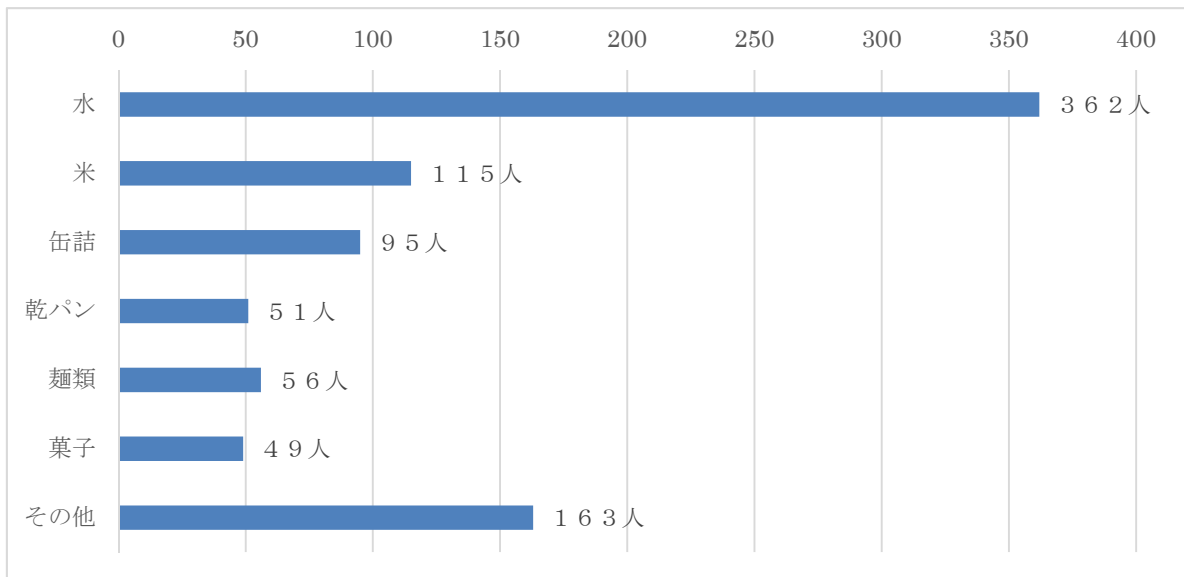


防災訓練に参加している方の7割以上が家庭で避難場所や避難方法について家族で話し合っているが、訓練に参加していない世帯でも確認することができるよう、自主防災組織や学校単位での研修など、防災訓練以外の周知が必要となる。

(4) 非常時に備え、食料などの備蓄を行っていますか？



【備蓄品目】

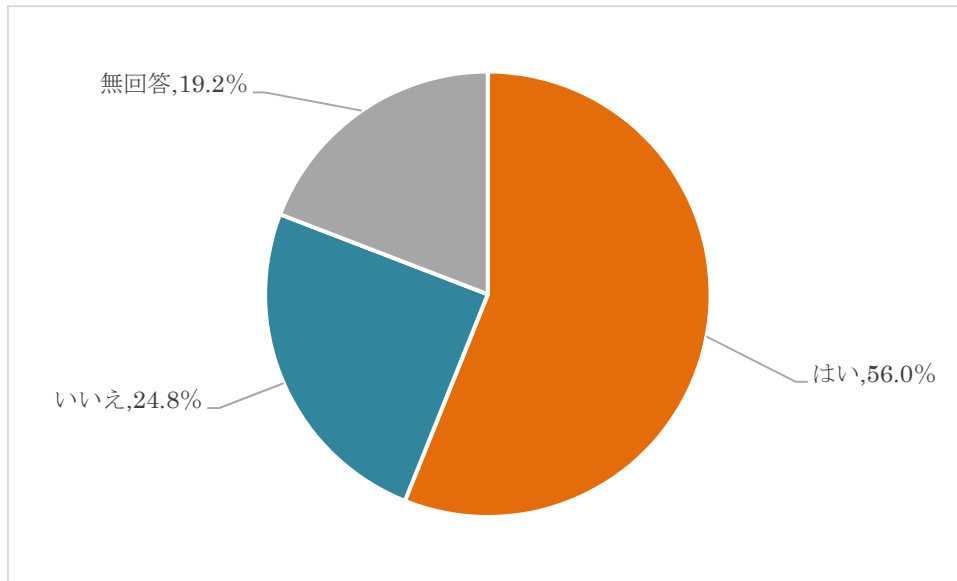


【備蓄日数】

日数/品目	水	米	缶詰	乾パン	麺類	菓子	その他
1日分	9	1	0	8	0	1	14
2日分	37	7	9	10	9	10	21
3日分	114	16	38	19	20	15	49
4日分	14	0	0	1	1	0	1
5日分	23	4	7	0	6	1	13
6日分	4	1	2	0	3	1	2
7日分	75	12	16	3	6	8	21
10日分	39	6	7	1	4	3	12
15日分	3	2	1	0	0	0	2
20日分	4	3	2	0	0	2	3
30日分	14	21	1	1	2	1	3
60日分	3	1	0	0	1	0	1
90日分	0	3	0	0	0	1	1
100日分	0	1	0	0	0	0	0
180日分	3	2	0	2	2	0	1
365日分	3	14	1	0	0	1	3
日数なし	17	21	11	6	2	5	16
計	362	115	95	51	56	49	163

食料等の備蓄については、回答者 1,300 人のうち、469 人（約 36%）が備蓄していると答えており、残り 831 人の方が備蓄していない（または無回答）という結果となった。地域防災計画において、各家庭では、ローリングストック法を活用し、家族の 7 日分の食料や 3 日分の飲料水の備蓄に努めることとしているため、訓練や研修等にて引き続き周知を行う必要がある。

(5) 緊急時の家族(または介助者等)との連絡方法などを決めていますか？



訓練に参加した方の5割以上が連絡方法を決めていると回答しているが、決めていない方と無回答の方を含めて5割近くが緊急時の家族等との連絡方法を定めていないことから、携帯各社が用意している災害伝言板等の使用方法について周知する必要がある。

質問4. 今回の防災訓練について

(1) 防災訓練の感想は？

【良かった点】

<平地区・津波>

- ・ テント、トイレ、リヤカーの組み立てが出来た事。
- ・ 信号機の点滅 スムーズに移動できた。
- ・ 防災意識付けしていける。機敏に行動できてよい。
- ・ 危機管理について醸成を計るのは良かった。
- ・ 避難場所の再確認が出来た。
- ・ 地区の消防・警察・自治体が連携している。
- ・ 隣人の元気な顔を見る事が出来た。
- ・ 避難所までの歩く時間の目安がわかった
- ・ 防災無線は良く聞こえてよかった。
- ・ 家族で共有できた。

<小名浜地区・津波>

- ・ 江名分遣所の説明(講話)が良かった
- ・ 防災講話 防災グッズ(新聞紙のスリッパ) ペットボトルなどを使った電灯
- ・ 非常時の備蓄品が良くわかった

<四倉地区・津波>

- ・ 大勢の人たちが集まったことで防災への関心が高い事が分かりました
- ・ 近所の方と顔をあわせる機会があまりないので、途中までの参加だったが多少なりとも区の方と交流できた事 改めて災害時の備え、連絡などについて考えられた事が良かった
- ・ 双葉郡のご夫婦が参加できたことが嬉しかった。歩行困難な老人2人が四倉高まで参加してくれたこと。

<勿来地区・土砂>

- ・ 3.11の映像を参考にした説明が現実的で良かったです
- ・ 避難訓練は初めてなので参考になった
- ・ 実際に避難して時間がどのくらいかかるのか分かった

<常磐地区・土砂>

- ・ 平日頃の防災に対して意識が増しました
- ・ 消防の方が細かく気を使って下さった
- ・ HUGゲームが良かった

<内郷地区・土砂>

- ・ 消防隊も含めて訓練できて現実感があった
- ・ 救援の処置の仕方は参考になって良かった
- ・ 宮2区見守り隊の報告が参考になった

<四倉地区・土砂>

- ・ 避難方法を確認できた
- ・ 消防団、隣組の関係者による声かけがあり安心

<遠野地区・土砂>

- ・ 伝達系統がはっきりしていた
- ・ 近所で連絡を取り合って一緒に避難したこと
- ・

<小川地区・土砂>

- ・ 避難場所を知ることができた
- ・ 三角布の結び方 担架の作り方 ロープの結び方

<好間地区・土砂>

- ・ 家にあるもので寒さ対策 骨折などの手当て方法や発電機のかけ方がわかって良かった
- ・ 改めて隣組の電話番号の確認が出来た

<川前地区・土砂>

- ・ 毛布を使つての担架の作り方 紐の結び方 怪我をしたときの処置

<久之浜・大久地区・土砂>

- ・ 地区の女性の方々も参加され、防災意識が高まったこと 自衛隊の活動を理解することに役立ったと思う
- ・ 消防による避難案内が速く、よかった

<三和地区・土砂>

- ・ 皆で話し合つて避難者をそれぞれ良い配置につかせることができたと思う(病気の方、障害の方、外国の方、老人、乳幼児、車椅子使用者)
- ・ 避難所運営ゲームにおいて、カードに書かれた状況を見て、みんなで配置を考えながら出来たことは面白い経験になったと思う

<田人地区・土砂>

- ・ 連絡網にて連絡を回して早急に避難所に来ることができた
- ・ 土囊の実演ができた
- ・ ドローンが素晴らしかった

【悪かった点】

<平地区・津波>

- ・ 参加者が少ない。
- ・ 警報による放送が聴きにくい(声が割れる)
- ・ 事前のスタンバイをしすぎている(訓練のための訓練だ) 消防・警察・自治体が事前に配置についている状況はありえない。避難指示が出てから出動し、どの様な問題があるのか洗い出す必要性がある。
- ・ 非常時には皆車で移動すると思うのだが。
- ・ 決められた人だけの避難であり実際とはかけ離れている。どこを通過して避難場所に行ったか把握して住民全体のシミュレーションが必要。
- ・ 秋の忙しいとき又は彼岸という事もあり、時期的にはどうかな？
- ・ 各拠点に立って誘導する方がいない。たびたび立っていて様子を伺うだけであった
- ・ 9時40分になっても何も案内がなく、帰る人もいた。

<小名浜地区・津波>

- ・ 講師の話が聞こえにくかった
- ・ もっと近い所が良い(避難場所)
- ・ 道路状況に困難がある(本当にあった場合)

<四倉地区・津波>

- ・ 四倉に避難してきた方々があまり見えなかったのもっと参加していただきたい！ 回覧板は回っているはず
- ・ 若い世代の参加が見られず残念
- ・ 訓練と言う事のためか緊張感はありませんでした。
- ・ 誘導するのに踏切を遠回りに渡したのが良くなかったと思います(折敷田の場所)
- ・ ペットをつれて参加している人はいなかったため、実際とは違うのではと思った。自身もペットは置いていったが、本当は一番に連れて行きたいと思っている。

<勿来地区・土砂>

- ・ 地域全体で考えたとき、周知がうまく行かなかったためか参加者が少なかった 行政がもっと関わって事前の勉強が必要ではないか
- ・ 消防の広報が聞き取れない(サイレンの活用)

<常磐地区・土砂>

- ・ 自宅より遠すぎる場所に参集 現実的ではない
- ・ 彼岸の連休はずらしてほしかったです
- ・ 体育館が少し暗くて見えにくかった

<内郷地区・土砂>

- ・ 現実には避難と避難所設置が同時であることを考えたときの対応のほうが学べると良かった
- ・ 救急の説明が専門用語ばかりで分かりにくい 皆に分かるような言葉でしてほしい
- ・ 体育館に入ってから導線が分かりにくく、混雑する

<四倉地区・土砂>

- ・ 要介助者の搬送方法が明確でない わからない
- ・ 非常用備品を実際に持って避難したほうが良かった

<小川地区・土砂>

- ・ 避難所に段差があり、車椅子や足が不自由な方のために坂道にすべき
- ・ 地区には高齢者が多く、またペットもいるので全体の訓練を希望したい

<好間地区・土砂>

- ・ 話より実技が多いほうがいい
- ・ 講話の資料もほしかった 危険マップは配布してほしい

<川前地区・土砂>

- ・ 講習が始まるまでに時間があつた(集まるまでに)

<久之浜・大久地区・土砂>

- ・ 参加住民が少ない

<三和地区・土砂>

- ・ 在宅でない方と高齢者との伝達が未達成だったこと
- ・ 障害のある方や動物を連れた方をどのように配分するか事前に考えておかないと、後で満杯になってしまう

<田人地区・土砂>

- ・ 現実味を持つ姿勢が足りない

質問5. 今後の訓練などについて

(1) 今後どのような訓練を実施してみたいですか？

- ・ 「早出・夜間訓練」
- ・ 「炊き出し訓練」
- ・ 「事前予告なしの訓練」
- ・ 「土砂災害訓練」
- ・ 「避難所運営模擬訓練」
- ・ 「図上訓練」
- ・ 「要配慮者等による避難訓練」
- ・ 「AEDを使用した救命・救護訓練」
- ・ 「自動車避難訓練」
- ・ 「ミサイル発射時における避難訓練」

質問6. その他 ご感想・ご意見など

その他、ご意見・ご感想、お気づきの点などをお書きください。

- ・ 3.11の震災のときは上の子が1歳半でした 子どもの命を守るためにあれから災害に対して考えるようになりました 本当に災害が起こったら、パニックになると思うように動けなくなると思います そのためにも近所の方々とのコミュニケーションや日頃からの心構えも大事だと思いました

- ・ お年寄りや、海側のサイレンだけでは聞こえていない。各地区にも、サイレンの音が聞こえるよう防災無線をつけたほうが良いと思う。
- ・ 訓練は非常に大切である。しかしシミュレーション状況に慣れすぎると、現実とのギャップに戸惑いが生じてしまう。運営上大変難しい事は重々理解していますが、より実戦を想定して訓練プログラム変更を希望する。
- ・ 避難者を誘導するのに指揮系統は明確にしてメリハリあるガイダンスをしてほしい
- ・ 高齢化が進み、現実の行動が大変になる 町内自主防災組織があっても機能できない悩みあり 一市民として、自助、共助、公助のあり方について実践的に研究しなければと考える
- ・ 平穏な生活の中でつい忘れがちな防災意識を改めて確認するために防災訓練は大きな役割を果たしていると感じています 今後もよろしく願いいたします

市内 13 地区において実施された今回の防災訓練については、地区毎の地形や特性に応じて、災害想定や訓練項目を設定し、訓練を実施したが、今後の訓練については、他地区の訓練やアンケート回答者の意見を参考とした上で、総合防災訓練を実施することが更なる防災力向上につながっていくものと思われる。

また、地区の居住者に対しては、地域の災害リスクや避難方法を再確認するため、自主防災組織等の団体を通じて、「共助力」を強化することを目的とした地区防災計画制度を周知し、地域コミュニティの維持・活性化を図っていくこととしたい。

以上